

## 1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 卒業
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 入学
- 1999年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 修了
- 1999年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 進学
- 2001年4月 日本学術振興会特別研究員DC2（東京大学、至2003年3月）
- 2002年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程  
単位取得退学
- 2003年4月 日本学術振興会特別研究員PD（九州大学、至2004年3月）
- 2004年4月 鹿児島大学法文学部人文学科助教授
- 2007年4月 鹿児島大学法文学部人文学科准教授
- 2012年9月 ハワイ大学マノア校歴史学科客員研究員・米国国務省東西センター太平洋諸島開発プログラム  
客員研究員（フルブライト奨学金研究員プログラム、至2013年2月）
- 2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

宗教史学・宗教学人類学・宗教民俗学・慰霊・死者儀礼の継承、日本と太平洋域の宗教文化

主な研究活動は大きく以下の3つのテーマ群についてである。

(A)戦争や災害による犠牲者に対する態度、(B)現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性、(C)島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触

### b 研究課題

具体的な研究課題は以下のとおりである。

#### (1) 「(A)戦争や災害による犠牲者に対する態度」に関わる研究

遺骨収集・戦地慰霊において、遺族や戦友といった戦死者を取り巻く直接的関係者ばかりではなく、宗教者・旅行者・行政といった第三者がどのように関与するかをめぐり問題と、次世代へどのように継承されようとしているかをめぐり問題について調査・考察を行っている。その際、日本人による遺骨収集や戦地慰霊の状況と米豪や太平洋諸島の状況との国際比較、次世代継承に関する宗教体験の伝承や宗教組織の継承などとの比較、戦地慰霊に関する聖地巡礼との比較を行っている。

#### (2) 「(B)近現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性」に関わる研究

九州をおもなフィールドとして、近現代の地域社会のなかで人びとがどのような信仰実践や宗教的行為を行ったかについて、そうした実践を支える日常生活とともに調査・考察している。とりわけ、民俗社会を基盤とした地域が、戦争や公害、自然災害などの歴史的経験からのレジリエンス（回復力）をどのように発揮しているかということについて、博士論文で取り上げた長崎の原爆慰霊を視野に入れながら考察しようとしている。

#### (3) 「(C) 島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触」に関わる研究

奄美群島とミクロネシア地域を主な対象としながら、大航海時代以降のヨーロッパ人のグローバルな移動に端を発する人的交流の活発化のなかで宗教的接触状況が地域の宗教性のあり方にどのような影響を及ぼしているのかについて比較宗教的な理解を目指している。

### c 概要と自己評価

(1)は博士論文の研究課題の延長上にあるものだが、対象地域の拡大と継承という宗教学的テーマへの深化を図りつつある状況である。2010～12年度に代表を務めた科研費基盤研究と、2012年度に滞在したハワイ大学での研究によって研究内容も研究ネットワークもさらなる展望が開けつつある。2018年度中に単著としてまとめる予定である。

(2)(3)はさまざまな研究プロジェクトへの関わりから徐々に輪郭が浮かびつつある、ポスト博士論文の研究テーマであるが、現状としては単発のモノグラフや翻訳の作業にとどまっている。しかし将来的には九州を窓口としてアジア・太平洋域を視野に入れた日本宗教史の構想につながる研究であるという認識で進めている。

## d 主要業績

### (1) 論文

財部めぐみ・西村明、「奄美の宗教について—島の精神的動態」、高宮広土・河合溪・桑原季雄編『鹿児島島の島々—文化と社会・産業・自然』、南方新社、31-41 頁、2016

Akira Nishimura, “Are Public Commemorations in Contemporary Japan Post-secular?,” *Journal of Religion in Japan*, vol.5, pp.136-152, 2016

西村明、「呪術としてのキリスト教受容—マイクロネシア・ポンペイ島を中心に」、江川純一・久保田浩編『宗教史学論叢 20 「呪術」の呪縛』リトン、379-401 頁、2017

西村明、「シズメとフルイのアップデート」、『戦争社会学研究』1、65-72 頁、2017

西村明、「空襲の記憶とポスト戦後」、『戦争社会学研究』1、149-157 頁、2017

### (2) 書評

赤澤史朗、『靖国神社—「殉国」と「平和」をめぐる戦後史』、岩波書店、解説「分断と二分法を超える想像力」担当、355-367 頁、2017.7

### (3) 学会発表

国内、西村明、「神代在住 O ターン郷土誌家をめざして」、「パブリック・ヒストリー構築のための歴史実践に関する基礎的研究」第 4 回研究会、雲仙市神代小路まちなみ交流館、2017.7.8

国内、西村明、「近現代における追悼と政教分離」、政教分離の会学習会、日本キリスト教団深川教会、2017.11.11

国内、西村明、基調講演「いま、東アジアで戦争と宗教を考えるということ」、第 2 回東アジア宗教研究フォーラム 関西大学千里山キャンパス、2018.2.24

海外、Akira Nishimura, “The Two Sources of the Postwar Commemorations for the War Dead in Japan” Exploring War, Memory and Religion: The Cases of Hiroshima and Nagasaki, シカゴ大学神学部 (米国) 2018.3.13

### (4) 翻訳

共訳、キース・L・カマチョ『戦禍を記念する—グアム・サイパンの歴史と記憶』、西村明・町泰樹、岩波書店、320 頁、2016.9

### (5) 共同研究(産学連携除く)

国内、参画、京都大学人文科学研究所、「日本宗教史像の再構築」、2014~2017

国内、参画、国立民族学博物館、「宗教人類学の再創造—滲出する宗教性と現代社会」、2013~2016

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

非常勤講師、駒澤大学、「宗教学研究」、2014.4~

招待講義、Akira Nishimura, “Non-denominational Deities for the Lasting Peace?: Reconsidering the Religious Representations in the Public War Commemoration in Postwar Japan,” オークランド大学 (ニュージーランド)、2017.3.13

招待講義、Akira Nishimura, “Residual Religiosity in Public Cenotaphs: Reconsidering the Separation of Church and State in Postwar Japan,” 南カリフォルニア大学 (米国)、2017.3.27

### (2) 学会

国内、日本宗教学会、評議員、2013.9~、編集委員、2013.9~、理事、2016.9~、男女共同参画・若手支援ワーキンググループ委員長、2017.7~、庶務委員、2017.10~

国内、戦争社会学研究会、運営委員、2014.3~、編集委員長、2016.4~2018.4、会長、2018.4~

国内、現代民俗学会、一般会員、2014.7~

国内、「宗教と社会」学会、常任委員、2009.6~2011.6、2013.6~2015.6、会長、2015.6~2017.6

国内、西日本宗教学会、運営委員、2010.7~、編集委員、2012.3~2015.3

### (3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

公益財団法人国際宗教研究所、国際宗教研究所ニューズレター編集委員、2015~、評議員、2017~

宗教文化教育推進センター、運営委員、2017~